

所 信 表 明

世界的な視野で「多様性を活力とする協働」を牽引する

グローバル化が加速する中で、資源の枯渇、環境破壊、エネルギー安全保障、世界金融不安、貧困、少子高齢化、感染症に関するパンデミックなど、人類全体で取り組むべき課題が顕在化しています。これらの地球規模の課題に対処するためには、様々な壁を越えて、人々が多様な知恵を出し合い、それらを活用し、連携協力して行動をおこすこと、すなわち「多様性を活力とする協働」が不可欠となっています。

東京大学は、創立以来、東洋の伝統に根を張りながら、西洋の学術文化を旺盛に取り込み、東西文化融合の独自の学術を世界に発信し、人類の知を多様なものとすることに貢献してきました。この伝統をしっかりと引き継ぎ、新たな知の創造とその活用の道を拓くとともに、世界を舞台として行動する人材を育てることで人類社会に貢献するための不断の挑戦を続けていきます。

この目指すべき目標を明確化し、広く共有するため「東京大学ビジョン2020」を策定します。

学生の主体性を刺激する世界最高の学びの場を創る

グローバル化が一層進む中で、世界の舞台で活躍する力を効果的に涵養するための教育環境を整備します。各分野での卓越した研究力を活かし、学生が研究の最前線で知の興奮と喜びを体験し、それらを糧として自ら意欲をもって自己を大きく成長させる主体的な学びを促します。4学期制、初年次ゼミナールをはじめとした少人数教育、国際化教育、体験活動プログラム、推薦入試等、既に着手した学部教育改革についてその定着をはかります。学部から大学院を通じた教養教育の提供、学生支援ネットワークの更なる強化を図ります。

三つの基礎力を涵養し、他者理解と自己相対化の力を育む

主体的な学びの中で、学生達の「自ら原理に立ち戻って考える力」、「考え続ける忍耐力」、「自ら新しいアイデアや発想を生む力」の三つの基礎力を鍛えると共に、それらを育み、活かすために、多様性を尊重する精神と他者への理解を通じて自らを相対化できる広い視野を獲得し、多くの人々と協働しつつ行動できる力を養います。

「国際卓越大学院教育プログラム」を創設し、「知のプロフェッショナル」を育成する

大学院教育に関しては、世界トップレベルの研究を推進し分野を牽引する研究所やセンターとともに、卓越性、国際性、文理融合の三つをキーワードとした国際卓越大学院を創設します。具体的には、本学が世界をリードできる学問分野や新しい融合領域において、世界水準の教育研究環境を有する修士・博士一貫の学位プログラム制大学院を開設します。この大学院において、自ら考え、新しい知を生み出し、人類社会のための知の活用を目指して行動する意欲満ち溢れた人材（「知のプロフェッショナル」）を育成します。ここに世界中から優秀な人材を惹き付けるとともに、本学が有する産学官のネットワークを活かしつつ、日本社会の活力の回復に向けた卒業生等の社会人のパワーアップの場ともなるよう、仕組みを整備します。このプログラムは、次に述べる知の協創の世界拠点の中核ともなります。

知の協創の世界拠点となる

東京大学が世界における知の協創の中心地となることを目指します。国境、文化、世代、産学官の壁を越えて様々な人々を惹きつけることで価値創造に参加する層を広げるとともに、知の探求を知の活用へとつなげる環境を備えた「知の協創の世界拠点」を創っていきます。具体的には、文系理系といった既存の領域を超えた新しい学術を展開する先行的な試みをいち早く推進します。また、本学から生まれた知の社会への展開を効果的に進めるための共同研究やベンチャー創出、知財管理の仕組みの高度化と改革を進めます。

現場との緊密な対話、責任と権限の明確化等を基軸とした運営改革を行う

飛躍の機会や課題解決のヒントは価値創造の舞台となる現場にあります。それゆえ、「現場との対話」を運営の基軸とします。また、東京大学のスケールメリットを活かすため、構成員の各層内及び層間の自由かつ緊密な意思疎通ができる環境をつくります。組織運営においては、本部と部局の責任と権限を明

確化した上で緊密な意思疎通をはかるとともに、情報の共有と意思決定の透明化を一層進めます。

社会との関係では、その負託に対し、より高いレベルで応えるため、経営協議会等を窓口とした密度の高い実質的な対話を行う仕組みをつくります。また、構成員間でより高度な研究倫理と規範意識を共有し、科学と学術に対する社会からの信頼を高めます。

社会からの信頼を前提として、東京大学の挑戦を可能とする財務基盤を確立するため、総長のリーダーシップのもとで、資源の拡大に努めます。

多様性を広げつつ、東大の総合力を発揮する

女性と若手の登用を促進するため、それを阻んでいる障害やその解決策に関して建設的で効果的な議論を進め、その結果を実行に移します。また、世界中から優秀な教員、研究者、学生を惹きつけ、存分に活躍できる場を提供することができるように、より柔軟な就労体制や充実した支援体制を整備します。さらに、東京大学に関係する全世代の総合力を結集するため、卒業生、退職教員等からなる人的ネットワークを飛躍的に充実させます。以上により、多様性を広げつつ、東京大学の総合力を発揮できるようにします。

卓越した若手研究者のために、安定性と流動性を両立させる人事制度を実現する

若手の教員・研究者の存在は、活力の源泉ですが、その雇用環境が急速に悪化しており、研究に打ち込むことが難しくなっています。若手にとっての「研究する人生」の魅力を回復し、適材適所の人事配置を可能とすることで、真に新しいこと、未知なるものにしっかりと立ち向かえるようにするため、安定性と流動性を両立させる人事制度を実現し、雇用環境を抜本的に改善します。

知の協創を支援するプロフェッショナルを育成しつつ、効果的な教職協働を実現する

教員と密接に連携し知の協創を支援するプロフェッショナルとしての職員を育成します。ニーズに応じた職員の能力開発の機会や複線的なキャリアパスを

提供するとともに、多様な職員の連携に支えられた効果的な教職協働を可能とし現場力を高める仕組みを作ります。また、意欲ある若手職員を継続的に確保します。

駒場・本郷・柏の三極間のネットワークを強化する

駒場では、学問の魅力と自律的学習の喜びを若者に伝えるための支援を強化します。本郷では、新図書館も活用しつつ文理融合連携を推進する総合的な価値創造の拠点を構築します。柏では、北側土地取得を好機と捉え、全学ビジョンを策定し、魅力あふれる国際学術拠点及び産学協創の場を構築します。以上のようにキャンパスごとに特色ある発展を図った上で、総合力の発揮を可能とし、知的多様性を一層高めていくために、駒場、本郷、柏の三極間を中心とした人的交流や協力関係を強化します。また、キャンパスと一体化し、教育機能の一部を担う寮を建設し、日本人学生と留学生がともに生活し学び合う環境を整備します。